

樋爪は比爪とも記され、その樋爪氏の居館が比爪館である。館跡は、五郎沼を含む約11万㎡にもおよび、発掘調査により赤石小学校北側付近から堀跡が確認された。堀の内側から井戸跡や住居跡・建物跡もみつまっている。また、国産陶器や中国産青磁も出土し、奥州藤原氏一族の繁栄をうかがい知ることができる。

— 岩手県の歴史散歩 岩手県高等学校教育研究会編 2006.12.25発行から —

《《《 2～3月行事予定のお知らせ 》》》

2月19日 (水曜日)	第49回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：平井和夫 テーマ：「防御性集落について(二)」 ※ 来年度事業内容について、意見交換の時間を設ける予定です。
3月19日 (水曜日)	第50回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：金濱興一 テーマ：「未定」 発表者：発表される方は早めに事務局へ テーマ：

☆☆☆ 期待 膨らむ !! 岩手県立博物館 テーマ展 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ひづめ

比爪 — もう一つの平泉 — 3月25日(土)～5月11日(日)

奥州藤原氏の第2の拠点「比爪」(岩手県紫波町)。比爪は平泉に匹敵する都市か。比爪と平泉はどのような関係か。考古学資料を中心にその実像を紹介します。

私たちが講演会等で何度もお世話になっている県立博物館主任専門学芸員の羽柴直人さんが、担当するテーマ展が3月25日から開かれます。待望の展示を見学できる日が待ち遠しく思われますが、検討している展示内容(案)は次のようです。

1 奥州藤原氏の勢力範囲と内部構造

*奥州藤原氏の勢力圏 *勢力圏内の内部構造

2 平泉 — 奥州藤原氏第1の拠点 —

*平泉の物質文化 *平泉の都市構造 *平泉の経塚 金鶏山(奈良国立博物館収蔵経筒)

3 比爪 — 奥州藤原氏第2の拠点 —

*比爪とは—比爪の都市構造 比爪と平泉の比較 *中核遺跡—比爪館 小路口I・II遺跡

*周縁遺跡—下川原I・II遺跡 栗田III遺跡 *宗教遺跡—弥勒地経塚 新山経塚 山屋館経塚

4 北方への広がり — 奥六郡の北へ —

蓮華廃寺(赤沢)

*岩手郡—大館町遺跡(盛岡市) *比内—矢立廃寺(大館市) *津軽—中崎館遺跡(弘前市)

浪岡城跡(青森市浪岡町) 板留(2)遺跡(黒石市) *外ヶ浜—内真部(4)遺跡(青森市) 新田(1)遺跡(青森市)

*糠部—佐組遺跡(七戸町) 仁昌寺II遺跡(一戸町) 中新山遺跡(野田村) *北海道—国内最北の経塚 厚真町宇隆I遺跡

5 比爪その後 — 鎌倉時代の紫波 —

*比爪氏その後 *鎌倉時代の紫波 *紫波郡の板碑文化

【第7次発掘調査(二)】

比爪館遺跡昭和60年度第7次発掘調査報告書<紫波町教育委員会(昭和61年4月1日発行)から

(2) 掘立柱建物 3棟

いずれも東西棟。岩館宅調査区の2棟中の1棟は庇を有する建物と考えられるが、全容を把握するまでは至らなかった。他に建物として捉えることのできなかつた柱穴が多数あつた。特に赤石小学校区東側で検出した柱穴群は溝に切られ、さらに東側調査区外に延長しているの、今後の調査によらなければならない。

(3) 土壇 6基

内外面、底面に筆で重ね書きした墨書土器が出土している。文字として明確なものはなく判読不能である。修書あるいは筆を揃えるために使用されたかと推察される。

(4) 井戸 2基

赤石小学校区の移動の埋土中から12世紀代の渥美産灰釉陶器片が出土。大型甕の口縁部片で全形を留めないが、口縁の径は70cm~80cmと推定される。なお、岩館宅調査区旧表土より同一個体の体部片が出土している。

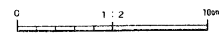
(5) 溝・溝状遺構 6条

全容を確認したものはなく、過去の調査で検出された溝に結びつくと考えられるものはない。底面付近埋土中から12世紀末かと思われる中国産青磁の細片が出土。以下、13世紀から14世紀の中国産青磁片、15世紀から16世紀代の中国産青磁片、美濃産陶器片などがある。

まとめ(要略)

古代から12世紀末の遺構、遺物の関連性については、解明する要素が不十分のため不明であるが、単に直接的、直線的な結びつきとは考えにくい。

最後に陶磁器類は12世紀代のみならず、13世紀から14・15世紀代まで出土している。このことから12世紀末以降の遺構の性格が今後の検討課題として残る。



墨書土器



赤石小学校調査区全体図

【訂正】前号(第30号)の赤石小学校調査区全体図は、岩館宅調査区全体図の誤りでした。